

(4) 中学校外国語科の実践と考察

(オ) 単元の課題

ア 授業の概要

(7) 期間 令和5年11月15日～11月29日

(イ) 対象 中学校 第2学年 (35名)

(ウ) 単元名 One World English Course 2
Lesson 7 “The Gift of Giving”

(エ) 単元の目標

社会的な話題に関して、相手の意に沿うように、聞いたり読んだりしたことをもとに、自分の考えを、その理由や根拠と共に、簡単な語句や文を用いて話すことができる。【話すこと（発表）ウ】

世界のより多くの人々がクリスマスを楽しみ過ごすにはどうすればよいか自分の考えを伝えるメッセージ動画を作成する。

(カ) 単元の評価規準

【思考・判断・表現】

社会的な話題に関して、相手の意に添うように、聞いたり読んだりしたことをもとに、自分の考えを、その理由や根拠と共に、簡単な語句や文を用いて話している。

(キ) 単元の指導計画

単元の指導計画について表28に示す。

表28 単元の指導計画

時	ねらい (■)、学習活動
1	<p>■ ALT の話を聞いたり、資料を読んだりして、パキスタンでクリスマスを楽しみ過ごしていないという現状について理解できる。</p> <p>① 単元目標の確認 ② Small Talk 「今年のクリスマスはどんな風に過ごしたい？」 ③ パキスタンのクリスマスについての聞き取り、タイのクリスマスについての資料の読解 ④ 発表内容を整理する発表原稿の作成 ⑤ 本時の振り返り</p>
2 ・ 3	<p>■ ALT の話を聞いて「パキスタンに住む ALT の家族がクリスマスを楽しみ過ごすにはどうすればよいか」自分の考えを、その理由や根拠と共に話すことができる。</p> <p>① 前時の振り返りと話す内容の確認 ② ALT に向けたメッセージ動画の作成 ③ 本時の振り返り</p>
4	<p>■ 単元の見通しをもち、学習計画を立てることができる。</p> <p>① ALT からの動画に対するフィードバック ② 単元目標の再確認、単元の学習計画表の作成 ③ メッセージ動画の作成 (第5・6時 A～F) ④ 自身の選択した学習材・学習時間・学習方法 (以下、学び方) の振り返り</p>
5 ・ 6	<p>■ 「世界のより多くの人々がクリスマスを楽しみ過ごすにはどうすればよいか」自分の考えを、その理由や根拠と共に話すことができる。 ※新出語彙の練習、学習材の確認を一斉に行い、各自メッセージ動画の作成 (A～F) に取り組む。</p> <p>A 各国のクリスマスについての資料の読み取り B 文法学習動画の視聴 C 過去分詞一覧表の活用 D 題材音読練習 E 自分の考えや理由、その根拠の整理 F メッセージ動画の撮影・提出 ※ A～F は学習進度や学習の順番を各自で決定する。 ※ 生徒の学習状況を見ながら、全体で学びの共有を行う場面をもつ。 ※ 毎授業、自身の学び方を振り返る。</p>
7	<p>■ 自らの学習状況を把握し、今後の学習計画を修正することができる。</p> <p>① 動画撮影 (Google Classroom に投稿)、グループによる動画の相互評価 ② 自身の学び方の振り返り</p>
8 ・ 9	<p>■ 「世界のより多くの人々がクリスマスを楽しみ過ごすにはどうすればよいか」自分の考えを、その理由や根拠と共に話すことができる。</p> <p>※5・6時間目と同様</p>
10	<p>■ 単元終了時における自身の学習到達度を把握し、これからの学習の見通しをもつことができる。</p> <p>① メッセージ動画の提出、メッセージ動画の相互評価 ② 単元を通じた自身の学び方の振り返り</p>
11	<p>■ 受動態の理解を深め、活用できるようになる。</p> <p>① ALT からの動画に対するフィードバック ② 例文を基にした意味と形式の理解、口頭によるパターン練習 ③ 本時の振り返り (受動態を使った英文作成)</p>

イ 手立ての具体

(7) 手立て①

本単元では、手立て①について、メッセージ動画の作成に取り組む際、必要な表現の習得、練習時間・練習量の設定、練習方法等を個人で選択できることとした。

なお、教師が用意した学習材や生徒が作成した発表原稿、動画は、クラウド上で共有することで、必要なときに参照できるようにした。(資料 36)



詳細については以下に示す。

a 興味・関心、特性、学習到達度に応じた学習材の設定

i 興味・関心に応じた学習材

生徒の興味・関心に応じられるよう、インターネットを活用して教師が用意した国の資料以外からも根拠となる情報を調べてよいこととした。

ii 特性に応じた学習材

資料の英文を教員が音読し、録音した音声データを、必要なときに参照できるようにした。

iii 学習到達度に応じた学習材

- ・ お助けシート (資料 37)

読み物資料の英文に、語句や文のまとめりごとにスラッシュを入れたり、単語や熟語の日本語の意味を書いたりしておくことで資料の英文を読んだり、メッセージ動画の発表原稿を作成しやすくした

シートを、必要なときに参照できるようにした。

資料 37 お助けシート

- ・ 文法学習のための動画、資料
生徒が、読み物資料の読解、メッセージ動画の原稿作成の中で必要に応じて文法を確認できるように用意した学習材。

b 興味・関心、特性、学習到達度に応じた学習時間・学習方法の設定

前述してきた学習材を活用したり、他者と対話したり、他者の発表原稿や動画を参照したりするタイミングや頻度、時間配分は自由に生徒自身で選択できるようにした。そうすることで、生徒が興味・関心、特性、学習到達度に応じて学習方法を選択しながら、メッセージ動画の完成を目指すことができるようにした。

(1) 手立て②

本単元においては、手立て②について、単元の目標やメッセージ動画完成までの道筋を単元の最初に示し、毎時間ペアやグループで、作品について相互評価を行うことを通して、生徒が自身の学び方を振り返り、学習の進め方を調整する時間を設けた。

また、生徒が単元の目標や、メッセージ動画のイメージ、学習を進める道筋について把握しやすくするよう、表 29 に示す資料を用意した。

表 29 手立て②における資料

見本動画	教師が生徒の目指す姿の具体を示した動画
ループリック	評価基準と A・B 評価別の例文を記載した資料
学習のてびき	単元を通じた学習の流れ・使える学習材・提出日等を記載した資料
ヒントカード	学習材を選ぶ基準を示した資料

(ウ) 手立て③

本単元においては、手立て③について、多様な立場や意見を踏まえないと納得解を導くことのできない課題を設定することとした。

その課題として、ア 授業の概要 (ウ) で示した課題を用意し、資料 38 のように生徒に示した。

資料 38 生徒に示した課題

貧困や差別が原因でクリスマスを楽しく過ごせない状況にあるパキスタン出身の ALT は、世界中のより多くの人々がクリスマスを楽しく過ごせるようにするにはどうすればよいか、皆にも考えて欲しいと意見を聞いています。ALT の先生に納得してもらえるように、あなたの考えとその理由を根拠とともに伝える動画を作成しましょう。

クリスマスが楽しく過ごせないという他国の状況は日本でのクリスマスのイメージとはかけ離れており、その国で暮らす人々の立場や状況を踏まえて自身の考えを述べていくことは、生徒にとって容易ではないと考えられる。

そのため、他者の考えを参考にすることや、助言をし合うこと等の協働が必然的にうまれることを想定している。

(イ) 手立て④

本単元においては、手立て④について生徒がメッセージ動画の完成に向けて、自分の学習状況に応じた他者と協

働できるよう、タブレット端末の学習支援ソフト上で、それぞれが調べている国名を書いたカード (資料 39) を共有し、誰がどの課題や学習材に取り組んでいるか分かるようにした。

資料 39 読んでいる資料の国名を書いたカード

課題を把握するために読んでいる国、人 (フィリピン、日本、ウクライナ、病院から一つ)

⇒ ウクライナ

解決策を見つけるために読んでいる資料 (アメリカ、ドイツ、イギリス、大阪、世界から複数可)

⇒ ドイツ、イギリス

(7) 手立て①

a 分析資料・分析方法

- ・ 録画記録による行動分析
- ・ 単元終了後の聞き取り

b 結果と考察

生徒A

生徒Aの学習活動の様子を表30、単元終了後の聞き取りを資料40に示す。

表30 生徒Aの学習活動の様子（第5～9時）

	学習材	学習時間の配分	学習活動
英文資料の読み取り	インターネット	20%	資料を読んだ後、インターネットを活用し、フィリピンの貧困問題の現状や、世界の募金活動について調べる。…①
発表原稿の作成	他者の発表原稿	35%	実体験をもとにした根拠の書き方について参考にする。
	他者との対話		他者と、ユニセフや日本の募金活動について対話する。…ア
	インターネット		・表現した英語の正確さを確認する。・日本の募金活動について調べる。
発表原稿の音読	音声データ	20%	苦手な単語の発音を繰り返し再生する。
発表練習（原稿の暗記含む）	他者との対話	25%…②	積極的に他者から助言を求める。…イ ・実体験をもとにした根拠について評価してもらう。 ・ペアに「どこ見とん？そんなんじゃ伝わらんよ。あと、表情がない。」と助言をもらう

資料40 生徒Aの単元終了後の聞き取り

教師：英文資料の読み取りにおいて、お助けシートを使わなかった理由について教えてください。

生徒A：a 自分の英語を読む力に自信があったからです。書く時も、インターネットの翻訳機能で自分の書いた英文が間違えていないか、いっぱい調べました。

生徒Aは、表30の①より、自身の興味・関心に応じて資料にはない情報を得ようとしていたと考えられる。

また、生徒Aは、英文資料の読み取りにおいて、お助けシートを活用していない。

その理由として、資料40のaから、自身の英文の読解力の高さを自覚していたため、お助けシートを活用する必要はないと判断したことが伺える。つまり、英文読解は容易にできたため、自分がより詳しく調べたいと思った内容を調べることで、話す内容の充実を図ろうとしたことが考えられる。

以上のことから生徒Aは、手立て①により、自身の興味・関心、学習到達度に応じ、自身に必要な表現の習得を選択し、課題解決に近づいていたと考えられる。

生徒B

生徒Bの学習活動の様子を表31、単元終了後の聞き取りを資料41に示す。

表31 生徒Bの学習活動の様子（第5～9時）

	学習材	学習時間の配分	学習活動
英文資料の読み取り	お助けシート	10%	単語や熟語の意味が分からない箇所のヒントを得ながら資料を読む。…①
発表原稿の作成	他者の発表原稿・動画	40% …②	他者がどのような根拠を基にして意見を述べているのか参照する。
	インターネット		「戦争を終えるべきだ」という自身の意見を支える根拠を探す。
	他者との対話		表現した英語の正確さを確認する。
発表原稿の音読	他者との対話	10%	相互評価を通して単語の発音について修正すべき点を指摘してもらう。
	音声データ		苦手な発音を繰り返し再生し、自身の発音を修正する。
発表練習（原稿の暗記含む）	他者との対話	40%	「広島のことを言うときは、広島の写真があるといいね。」と助言をもらう。
	インターネット		相互評価で受けた助言をもとに、発表で提示する資料として広島の写真を用意する。…③

資料 41 生徒 B の単元終了後の聞き取り

教師：他者参照を行った理由について教えてください。

生徒 B：a 英作文が苦手なので、友達の発表原稿や動画を見たら、自分に足りないところがわかるかなと思いました。見ると、自分には根拠が足りないことが分かりました。やばいと思った。それで、すごい人の原稿を毎回見て参考にしました。

生徒 B は、表 31 の①より、英文資料の読み取りにおいて、お助けシートを活用し、単語や熟語の意味が分からない箇所のヒントを得ながら資料を読んでいることが分かる。ま

た、資料 41 の a では、生徒 B は「英作文が苦手」と述べており、表 31 の②より、発表原稿作成時間に全体の 40% の時間を費やしていることが分かる。これらのことから、生徒 B はお助けシートを活用することで資料の読解を短時間で済ませ、苦手とする発表原稿の作成に十分な時間を充てようとしていることが推察される。

以上のことから、生徒 B は、手立て①により、自身の学習到達度に応じ、必要な練習時間・練習量・練習方法を選択し、課題解決に近づいていたと考えられる。

生徒 C

生徒 C の学習活動の様子を表 32、単元終了後の聞き取りを資料 42 に示す。

表 32 生徒 C の学習活動の様子（第 5 ～ 9 時）

	学習材	学習時間の配分	学習活動
英文資料の読み取り	お助けシート	40%	<u>音声データを流しながら、お助けシートの英文を読解する。…①</u>
	音声データ		
発表原稿の作成	他者の発表原稿	30%	他者がどのような根拠を表現しているか確認する。
	お助けシート		自身の発表原稿を修正する。
発表原稿の音読練習	他者との対話	25%	発音の修正箇所について助言を受ける。
	音声データ		<u>音声データを繰り返し再生し、発音を真似する。…②</u>
発表練習（原稿の暗記含む）	一人で	5%	全てを通して 3 回音読する。

資料 42 生徒 C の単元終了後の聞き取り

教師：英語学習で苦手なことはありますか。

生徒 C：a 英文を読み取ったり、書いたりすることが苦手です。

教師：どのくらいの頻度で他者と対話しましたか。

生徒 C：先生の指示で相互評価をしたとき以外は他の人の発表原稿を見ていました。見たのは、b 毎授業、ずっと見ていました。

教師：他者参照を選択した理由を教えてください。

生徒 C：先生から、実体験に基づいた根拠がないことを教えてもらったので、c 他の人がどんな根拠を書いているのか参考にするためです。あとは、人と話すことが苦手だからです。

生徒 C は、表 32 の①では、音声データを聞きながら、お助けシートの英文を読解している。また、資料 42 の a では、生徒 C は、「英文を読み取ることが苦手だ」と述べている。これらのことから、生徒 C にとって、英文を自分の力で黙読するよりも、音声を聞きながら英文を読み取ることで理解を深めようとしていることが推察される。

また、表 32 の②においても、音声データを繰り返し再生し、発音を真似している。これは、生徒 C が、単語の発音が分からないという自身の学習到達度に応じて必要な練習方法を選択していると考えられる。

以上のことから、生徒 C は、手立て①により、自身の特性、学習到達度に応じ、自身に必要な練習方法を選択し、課題解決に近づいていたと考えられる。

c 手立て①の妥当性と課題

生徒自身の興味・関心、特性、学習到達度に応じて、必要な表現の習得・練習時間・練習量・練習方法を個人で選択できるようにすることは、生徒が学び方を選択しながら課題解決に近づくことに有効であったため、手立て①の妥当性が示されたと考える。

一方で、メッセージ動画作成の過程で、文法学習のための動画や資料を活用した生徒が、生徒A～Cを含め、あまり見られず、指導事項である文法事項が上手く活用されなかった。

そこで、教師が生徒全体に対して、活用をさせたい文法を用いた表現を確認し、活用の練習を行ったり、間違いの修正を図ったりした。このように、生徒の学びの時間の多くを個人裁量にする授業形態では、指導事項の習得に課題があることが分かった。そのため、文法や単語の一斉指導や、ドリル練習等、知識・技能の習得に焦点化した学習場面を設けることが必要である。

(i) 手立て②

a 分析資料・分析方法

- ・ 録画記録による行動分析
- ・ 単元終了後の聞き取り

b 結果と考察

生徒A

資料 43 生徒Aの単元終了後の聞き取り

教師：今回のような、自分で勉強方法を考えて進める授業はどうでしたか。

生徒A：最初は、どう勉強したらいいのかわかりませんでした。でも、見本動画、ループリック、学習のてびきを見たとき、友達とa『こんな感じだ～！こんな風にするといいいんだ。』ってなったんです。それでインターネットでいろんな国のことについて調べたりして。

教師：ループリックは何の役に立ちましたか。

生徒A：b 最初は、文量や文の流れを参考にしました。根拠を書く前にもう一度確認して、参考にして根拠を書き足しました。

教師：（相互評価のときに）友達から、どの

ような助言をもらいましたか。

生徒A：生徒Eに、c 『どこ見とるん。そんなんじゃ伝わらんよ。表情もない。』と言われました。生徒Dに言われて、自分がアイコンタクトをできていないことがよく分かりました。それで、d 原稿を全て暗記してアイコンタクトに気を付けて話すようにしました。」

資料 43 の、生徒Aの a の発言から、生徒Aは、見本動画とループリック、学習のてびきを参照することで自身が目指すべきゴールの姿をイメージし、学習の見通しをもつことができたと考える。

また、同資料の b のように、ループリックを活用し、根拠を書き足したことが分かる。つまり生徒Aは、ループリックを活用することで、生徒自身の発表内容に根拠が不足していることに気付き、自身の学習到達度を把握していたと推察される。

また、同資料の c 及び d から、相互評価の場面で、他の生徒から助言を受けたことで、発表の仕方に気を付けるようになったことが分かる。さらに、生徒Aは、表 30 の②では、発表練習に全体の 25%の時間を費やしている。

以上のことから、生徒Aは、手立て②により、学習の見通しをもち、自身の学習到達度を把握した上で、必要な表現の習得・練習時間・練習方法を調整し、課題解決に近づいていたと考えられる。

生徒B

資料 44 生徒Bの単元終了後の聞き取り

教師：第4時に『え、意外と簡単じゃん！』と発言した理由は何ですか。

生徒B：見本動画や学習のてびき、ループリックを使って、これからどんなものを使って、どんなものを作成しないといけないのか、提出日までの残りの授業数や使える学習材を確認したのがよかった。それまで（第1時～第3時）、全然何をやったら良いか分かりませんでした。『こんな無理じゃん』と思った。でも、a これなら原稿書けそうだとわかった。

教師：学習過程で見本動画を見ましたか。
 生徒B：b よく見ました。毎授業見ました。すごい参考になった！それで、家でも友達の原稿や動画も見るようになりました。
 教師：他の人の作品を見たのはなぜですか。
 生徒B：c 友達がどこまでやってるか気になったからです。他にも、発表練習の様子を見て、進捗状況を確認し、アドバイスをもらいました。d 友達が自分よりたくさん英語を話しているのを見ると焦った。それで特にすごい人の作品をよく見て話し方を参考にしました。

資料44のaでは、生徒Bが、「これなら原稿が書けそうだ」と述べている。この段階で生徒Bは、自身が目指すべきゴールの姿をイメージし、学習の見通しを明確にもつことができたことが伺える。

また、bでは、見本動画を毎時間参照していく中で、他者の発表原稿や動画も確認するようになったと述べている。またその理由として、cでは、友達の進捗状況が気になったことを挙げている。

さらに、生徒Bは、dでは、他の生徒が自分よりもたくさん英語を話しているのを見て焦ったと述べている。以上のことから生徒Bは見本動画や他者の発表動画を比較し、学習到達度を把握していたと考えられる。

その後、表31の発表練習①では、相互評価で受けた助言をもとに発表に用いる資料を準備している。これは、広島の写真を用意することで、戦争や平和について述べる自身の発表をより分かりやすいものにしようとしていたものと考えられる。

以上のことから、手立て②により、生徒Bが自身の学習到達度に応じ、明確な見通しをもちながら必要な表現の習得、練習方法を調整することで、課題解決に近づいていたと考えられる。

生徒C

資料45 生徒Cの単元終了後の聞き取り

教師：4時間目に一斉に見本動画、ループリック、学習のてびき、ヒントカードを確認したときどう思いましたか。
 生徒C：a 特にループリックを見て2つも根拠を示すのは難しそうだと思います。」
 教師：4つの資料の中で、どれをよく使いましたか。
 生徒C：b 学習のてびきです。メッセージ動画の作成が提出日までに間に合うように気をつけました。

生徒Cは、資料45のaでは、「特に、ループリックを見て、2つも根拠を示すのは難しそうだ」と述べている。

また、生徒Bは、bでは「学習のてびきを参照して、メッセージ動画の作成が提出日までに間に合うように気をつけた」と述べている。

これらのことから、生徒Cが、初めの段階で自身が目指すべきゴールの姿をイメージし、学習の見通しを明確にもつことができたことが伺える。

また、表32の②から、生徒Cは、相互評価を行うことで、発音を修正する必要があると認識し、それに応じて必要な学習材である音声データを活用しながら発音の修正を試みていたと推察される。つまり生徒Cは、自身の学習到達度を把握し、学習の調整を図っていたと考えられる。

以上のことから、生徒Cが、手立て②により、自身に必要な表現の習得・練習時間・練習量・練習方法を調整し、課題解決に近づいていたと考えられる。

一方で、生徒Cは、授業中、ヒントカードを見て、困っている様子が見られた。ヒントカードは文字が多く、内容を捉えるのに時間がかかりうまく使えなかったことが理由であると述べていた。このことから、情報を整理し、誰もが使える分かりやすい資料にする必要があったことが分かった。

c 手立て②の妥当性と課題

単元の目標やメッセージ動画完成までの道筋を最初に示し、相互評価を行ったこと

は、生徒が自身に必要な表現の習得・練習時間・練習量・練習方法を調整し、課題解決に近づくことに有効であり、手立て②の妥当性が示されたと考える。

一方で、学習のてびきや、ヒントカードのように、学習方法等を自身で選択・判断しながら進めていくことに苦手意識をもつ生徒が必要とする資料は、情報を整理し、誰もが使いやすい資料にする必要があると考えられる。

(ウ) 手立て③

a 分析資料・分析方法

- ・ 録画記録による行動分析
- ・ 授業中の発話記録の分析
- ・ 単元終了後の聞き取り
- ・ 完成発表原稿の分析

b 結果と考察

生徒 A

資料 46 第 1 時生徒 A と生徒 E の発話記録

生徒 E : 戦争? やばくない? 銃もってる? なんで楽しめんのん?
生徒 A : キリスト教とイスラム教。宗教が違うけん。
生徒 E : あ〜そういうこと! a もう、解決するとか無理じゃない?
生徒 A : b うん。
生徒 E : 宗教を変えるしかないか。でも、怒られるかね、神様に。
生徒 A : う〜ん。・・・c 仲良くなったらいいのにね。2つの宗教が。
生徒 E : たしかに。
生徒 A : d どうやって。
生徒 E : う〜ん。

資料 47 生徒 A の完成発表原稿

Hi Hassan sensei. I was surprised to know that Christmas is not enjoyed by everyone in the world.

For example, in Philippine, even on December 25th, children look for some food in the mountain of garbage. They lack not only food but housing too. Christmas is not a special day for them because they are very poor.

I think we should help them. For example, make a donation, volunteer, and clean.

They are collecting Christmas presents in donation boxes. Not only money but lots of presents are collected to help people in need.

For example, in Japan, thanks to the donations, victims and the poor are being helped. I think it would be a better environment if donations were the norm. Christmas can be enjoyed by everyone in the world if we help each other. Have a happy Christmas.

生徒 E は、資料 46 の a では、パキスタンの宗教差別について、授業中の発話記録では、「もう解決するとか、無理じゃない?」と述べている。その考えに対し、生徒 A も、同意している (b)。このことから、教師が設定した課題に対し、最初は、諦めていることが分かる。

しかしその後、生徒 A の、「仲良くなったらいいのにね。2つの宗教が。」という発言 (c) を糸口に、生徒 A の d の発言以降、生徒 A と生徒 E が対話することで、思考を深めようとしている様子が伺える。こうした一連のやり取りから、教師が設定した課題が、多様な立場や意見を踏まえないと納得解を導くことのできない課題であったからこそ、生徒 A と生徒 E の対話が生まれたと考えられる。

実際、生徒 A は、5 時間目以降に設定された課題についても、他者と協働的に学びながら発表原稿を仕上げた。授業の録画記録には、生徒 A が自分と同じように、募金活動について述べている他の生徒と対話し

ている様子が残っている。資料 47 の下線部が、生徒 A が他者と協働的に対話した後に実際に追記した箇所であり、募金活動についての情報が具体的に述べられている。

以上のことから、手立て③により、生徒 A は他者と対話し、助言し合ったり、新たな視点を得たりすることで、考えを深めたり広げたりしながら課題解決に近づくことができたと考えられる。

生徒 B

資料 48 生徒 B の完成発表原稿

Hi Hassan sensei. Many people in Ukraine and Russia are killed because of the war. Also, it is said that people can't celebrate Christmas this year.

We should stop the war.

For example, on Christmas day, every soldier was allowed to stop fighting with each other to celebrate Christmas.

A long time ago, on atomic bomb was dropped on Hiroshima. But now they are living in peace. So, I hope that Hassan's family can do the same. Enjoy this Christmas Mr. Hasan.

生徒 B は、資料 44 の b の発言から、他者の発表原稿や動画を常に参照していたことが分かる。実際に生徒 B は、他者の作品を参照した後に、資料 48 の下線部を追記している。このことから、生徒 B は、他者の根拠の示し方やその具体を参照し、自身の考えの根拠として、広島過去の事実を示し、相手に伝わるように工夫したと推察される。

また、生徒 B は、単元を通して、他者と協働的に対話する様子が録画記録に見られた。授業中の観察においても、他者から発音を修正すべき単語を教えてもらったり、「広島のことを言うときは広島の写真を提示すると良い」ことなど、自身の発表の仕方について助言をもらったりすることで、その改善に取り組む姿が見られた。つまり、生徒 B は、教師が設定した課題が、多様な立場や意見を踏まえないと納得解を導くことのできない課題であったからこそ、他者の作品を参照したり、対話したりしたと考えられる。

以上のことから、手立て③により、生徒 B は他者を参照したり、他者から助言をもらったり、新たな視点を得たりすることで、考えを深めたり広げたりしながら課題解決に近づくことができたと考えられる。

生徒 C

資料 49 生徒 C の完成発表原稿

Hi Hassan sensei. I was surprised to know that Christmas is not enjoyed by everyone in the world.

For example, in Ukraine, the war started from February 24th, 2022. Many people in Ukraine and Russia are killed because of the war.

We should end the war with Russia.

For example, the war was stopped not only in one place but many places in England and Germany on Christmas. England and German soldiers played soccer with each other.

Have a happy Christmas Hassan sensei! See you.

生徒 C は、資料 42 の b の発言では、他者の発表原稿を「毎授業、ずっと見ていました。」と答えている。その理由について、「他の人がどのような根拠を書いているか参考にするため」だと答えている (c)。このことから、生徒 C が、他者の発表原稿から自身の発話に活かせる表現がないか探したり、他者の意見を知ることによって自身の表現内容の妥当性を確認したりしていたことが推察される。

また資料 49 の下線部は、生徒 C が他者参照後、発表原稿に追記した文である。

このように、他者参照の後、「クリスマスを楽しく過ごすために戦争を終わらせるべきだ」という自身の考えを支える根拠として、戦時中のイギリスとドイツがクリスマスには停戦しサッカーをして楽しんだという具体的事例を示すことで、話す内容に深まりをもたせようとしたことが推察される。

これらの姿から、生徒 C は、教師が設定した課題が、多様な立場や意見を踏まえないと納得解を導くことのできない課題であったからこそ、他者の発表原稿や動画を参

照したり、対話したりしたと考えられる。

以上のことから、手立て③により、生徒Cは他者を参照したり、他者から助言をもらったりすることで、新たな視点を得たり、考えを深めたりしながら課題解決に近づくことができたと考えられる。

一方で、生徒Cは、資料49のように、ウクライナ・ロシアの戦争を解決する方法について、イギリス・ドイツのクリスマス停戦の資料を基に根拠を示すことができても、実体験に基づくような具体的な根拠を示して考えを述べるができなかった。この要因として、ウクライナ・ロシアの戦争といったテーマが、生徒Cの日常とかけ離れており、実体験に結びつけて考えることが難しかったためであると推察される。本単元では、社会的なテーマを扱ったが、社会的なテーマの中でも、生徒が自分事として捉えることのできる題材を扱ったり、テーマについて段階的な指導を行ったりするなどの工夫が必要であると考えられる。

c 手立て③の妥当性と課題

多様な立場や意見を踏まえないと納得解を導くことのできない課題を設定したことで、生徒は、他者を参照したり、他者と助言し合ったり、新たな視点を得たりしながら、考えを深め、課題解決に近づくことができていた。よって、手立て③の妥当性が示されたと考えられる。

一方で、社会的なテーマを扱う場合には、生徒が自己関連性をもつことができる工夫が必要である。

(工) 手立て④

a 分析資料・分析方法

- ・ 録画記録による行動分析
- ・ 単元終了後の聞き取り

b 結果と考察

生徒A

資料50 生徒Aの単元終了後の聞き取り

教師：誰の発表原稿や動画を参考にしていましたか。また、その理由も教えてください。

生徒A：特に生徒Fです。生徒Fは、根拠が具体的で、意見を2つも述べていました。

教師：生徒Fは、同じ国の資料を読んでいたか。

生徒A：違います。

教師：オクリンク（資料39）を見て、誰がどの国の資料を読んでいるかを確認した上で生徒Fの作品を参照しましたか。

生徒A：a いえ、してないです。発表原稿（資料36）を読んだら、b 誰がどの資料を使っているのか自分で判断できました。

資料50のaの発言より、生徒Aは、手立て④を活用していないことが分かる。その理由として、「誰がどの資料を使っているのか自分で判断できました。」と答えている(b)。生徒Aは資料40のaにおいても、「自分の英語を読む力に自信があった」と答えている。このことから、生徒Aのように、自身の学習到達度の高さを自覚していた生徒は手立て④を活用する必要を感じていなかったことが考えられる。加えて、表30のア及びイから、生徒Aは単元を通して、他者を参照したり他者と助言し合ったりしていることが分かる。これらのことから、生徒Aのように、他者と直接コミュニケーションをとりながら学ぶことのできる生徒の場合には手立て④を活用する必要性はないことが推察される。

以上のことから、手立て④は、生徒Aのように英語の学習到達度が高く、他の生徒と関わるのが得意な生徒にとって必要な手立てとは言い難い。

生徒 B

資料 51 生徒 B の単元終了後の聞き取り

教師：オクリンク（資料 39）を使って、誰がどの国の資料を読んでいるかを確認しましたか。」

生徒 B：a してないです。みんなの発表原稿を見て、特にすごい人の作品を参考にしました。

B 違う国の資料を読んでいる人の原稿も参考になります。文の流れ、根拠の示し方が参考になった。

資料 51 の a の発言より、生徒 B は生徒 A 同様、手立て④を活用しておらず、他者がどの国の資料を読んでいるかを確認していないことが分かる。その理由として、b のとおり、選んだ国ではなく、文の構成や表現の仕方などの視点で参照していることが伺える。つまり、参照する相手は、必ずしも同じ国を調べている相手とは限らず、参照する目的によって相手を選択していると考えられる。

以上のことから、生徒 B のように他者参照を行う目的を自ら見いだすことのできる生徒には、手立て④は必ずしも必要な手立てではないと考えられる。むしろ生徒自身で、誰の何を参照すれば良いかを判断することで、目的意識をもって他者参照し、新たな視点を得たり、考えを深めたりしていくことができると考えられる。

生徒 C

資料 52 生徒 C の単元終了後の聞き取り

教師：誰の発表原稿や動画を参考にしていましたか。また、その理由を教えてください。

生徒 C：特に生徒 G です。原稿の書き方が分からなかったので、自分と同じ国の資料を読んでいたからです。

教師：a 生徒 G が、自分と同じ国の資料を読んでいることは、オクリンク（資料 39）を使って確認しましたか。

生徒 C：b いえ、みんなの発表原稿（資料 36）を読んで確認しました。

資料 52 では、教師の問い a に対し、生徒

C は「みんなの発表原稿を読んで確認しました。」と答えている (b)。つまり生徒 C は、手立て④を活用せず、生徒の発表原稿を一枚一枚読み、自分で同じ国の課題解決に取り組んでいる生徒を探しており、手立て④を効果的に活用できなかったものと推測される。

その要因として、生徒 C が手立て④の存在を理解していなかったことが考えられる。生徒 C は手立て②でも述べたように、授業中、ヒントカードもうまく活用できていなかった。そのため、生徒 C のように、手立て④の活用方法を理解しておらず、適切な協働相手を探せていない場合には、必要に応じて協働相手を提案したり、助言をしたりする必要があることが考えられる。

生徒 H

先に述べてきた生徒 A～C は、手立て④を活用していなかった。一方で手立て④をうまく活用した生徒として生徒 H があげられる。そこで、生徒 A～C に加えて、生徒 H の具体の姿を示す。

生徒 H は英文読解を苦手とし、定期テストにおける学習到達度は 59%、本単元における単元課題の評価は A であった。

資料 53 生徒 H の単元終了後の聞き取り

教師：誰の発表原稿や動画を参考にしていましたか。また、その理由も教えてください。

生徒 H：a 生徒 I です。根拠が具体的でわかりやすく、発音も良いからです。

教師：オクリンク（資料 39）を使って、誰がどの国の資料を読んでいるかを確認しましたか。

生徒 H：b しました。英文を読むのに時間がかかるので、早く見る人を決めたかったからです。

資料 53 の b では、生徒 H が、自身が参照する相手を早く決めるために、手立て④を活用して、他者がどの国の資料を読んでいるかを確認していたと答えている。その際、生徒 I の発表原稿や動画を参照した理由について、「根拠が具体的でわかりやすく、発音も良いから」と述べている

(a)。

このように英文読解を苦手とする生徒Hが、手立て④を活用したことで、誰の何を参照すれば良いかを的確に判断し、他者参照しながら発表原稿の内容を深めたり、発表練習に十分な時間を費やしたりして課題解決に近づくことができたと考えられる。

c 手立て④の妥当性と課題

生徒Aのように学習到達度が高く、他の生徒と関わるのが得意な生徒、生徒Bのように、他者参照の目的を明確に持って相手を選択できる生徒には、手立て④は必要ではなく、その妥当性を示すことはできなかった。一方、生徒Hのように他者の意見を参照したい生徒は、手立て④を活用することで新たな視点を得たり、考えを深めたりして課題解決に近づくことができている。このことから、個々の特性によって手立て④が上手く活用される場合もあると考える。

また、生徒Cのように準備された学習材や学習方法について理解していない生徒がいないか確認をし、まずは、生徒が上手く学習を進められているかを見取る必要があると考える。手立てを与えて終わりではなく、その手立てを上手く活用しながら課題解決ができるよう、教師の見取りや支援が必要である。